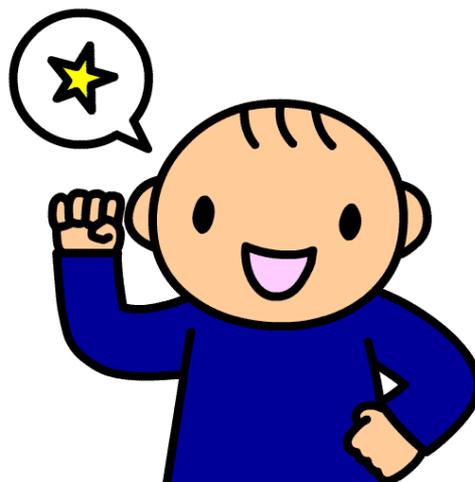
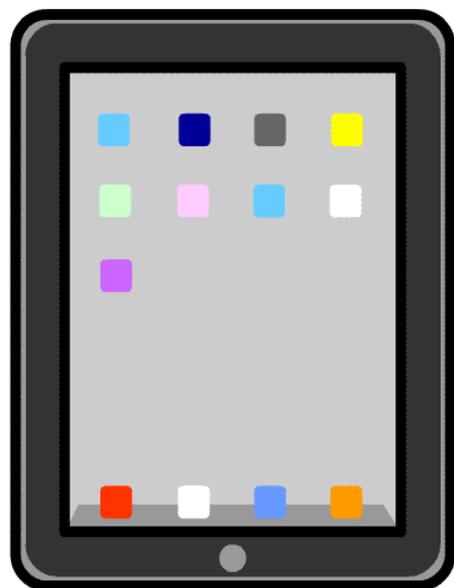


難聴児童の伝える力を 高めるための指導の工夫 —iPadを活用した取り組みを通して—



名護市立大北小学校

伊波興穂

沖縄県内のろう学校と難聴学級の状況



- ・ろう学校1校
 - ・小学校難聴学級5校
(北部地区には本校のみ)
- 本校難聴学級について
- ・在籍児2名
 - ・他校より難聴児童の通級の受け入れ
 - ・幼稚園から難聴幼児の教育相談受け入れ

ろう学校から遠いため、地域の聴覚障害児の相談が多く寄せられる

対象の児童について



今回は2名の事例についての取り組みを紹介します

1 事例目 Aくんの実態



- 小学5年
- 中等度の難聴
- 難聴学級に在籍
- 準ずる教育課程
- 国・算以外は交流学級の児童と一緒に学習
- 今年4月より野球部に入部
- 友達と遊ぶことが好き

1 事例目 Aくんの実態

- 複数の音声を同時に判断することが困難
- グループ活動で自分の意見を伝えたり、質問したりすることが難しい
- Q-Uテストの結果「侵害行為認知群」にプロット
- 自分の聴こえにくさについて、友達に知ってほしいという気持ちが出てきた
- 保護者も難聴がある。部活の送迎時において、行き違いが起こり、電話でのやりとりに不安が出てきた

そこで . . .

●当初のねらい

- ① グループ活動や話し合い活動の中で、主体的に自分の考えを伝えたり質問したりできる
- ② 自身の「聴こえにくさ」について、考えや思いをまとめ、友達に伝えることができる
- ③ 保護者や教師とメール機能を使って連絡を取り合うことができる

使用したアプリ

① 友達と筆談で関わるツールとして

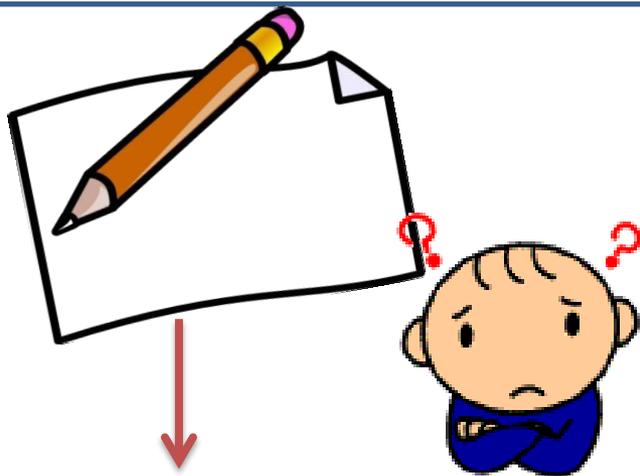


「カメラ」「筆談アプリ」「Notability」を活用

① iPadで筆談



紙と鉛筆での筆談

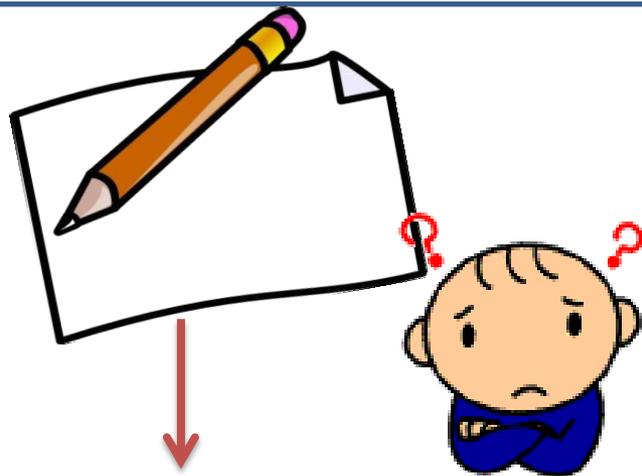


- ・書かれた言葉の意味がわからない
- ・指示語がわからない
→ 続かない
- ・常に教えてもらう側

① iPadで筆談

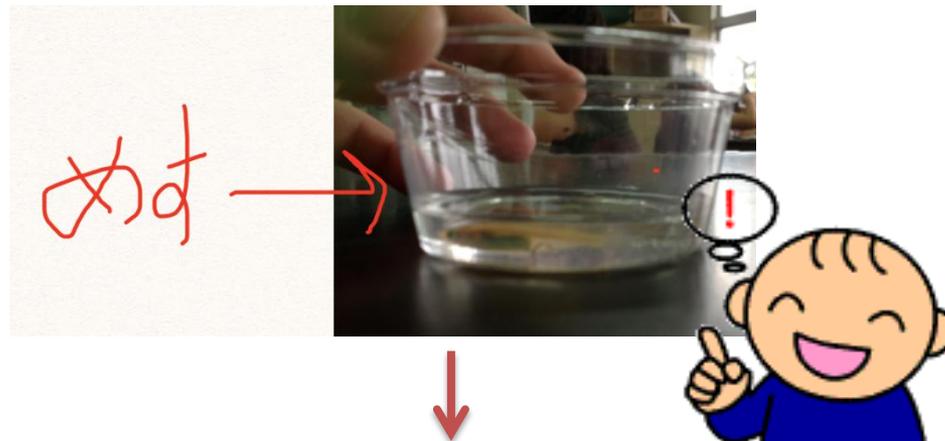


紙と鉛筆での筆談



- ・書かれた言葉の意味がわからない
- ・指示語がわからない
→ 続かない
- ・常に教えてもらう側

iPadで写真や絵に文字を書き込む



- ・指さしだけでも伝えられる
- ・単語の理解にもつながる
- ・数人で画面をみながら共有できる
- ・A児から友達へ伝える(教える)こともできるのではないか

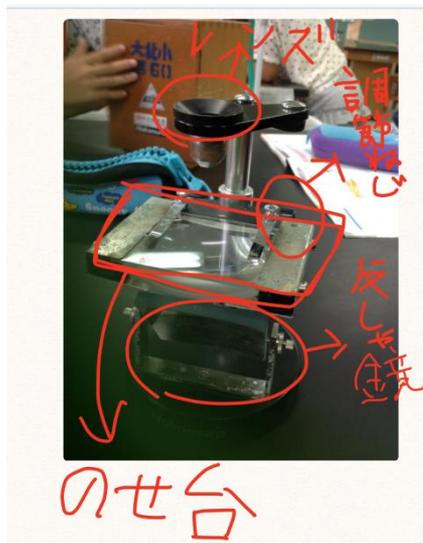
① iPadで筆談



1学期：理科の観察や実験場面での活用を試みた

5月

A児が撮った
写真にグループで
書き込んだメモ



A児は友達が
書き込む様子
を見ているだけだった

- ・周囲の児童にも理解してもらうため、難聴学級担任が [撮影→写真を読み込む→文字を書き込む]の流れを示す
- ・A児が撮影した写真に同じグループの児童が文字を書き込んでメモを作成

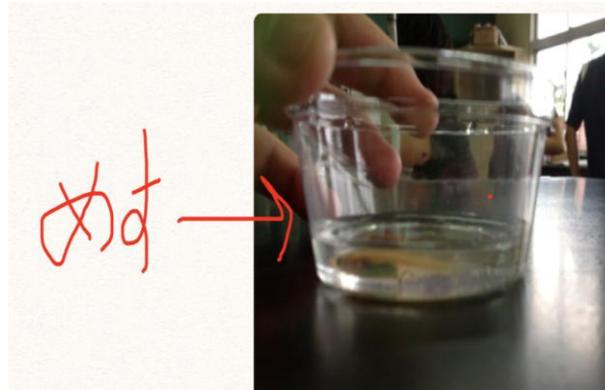
① iPadで筆談



1学期:理科の観察や実験場面での活用を試みた

6月

A児が初めて文字を書き込んだ写真



- ・メダカの観察場面
〈オスとメスのからだの違いについてグループで話し合う〉
- ・周りの児童が写真を撮って、話し合いがスタート
- ・これまでは、友達が話しているのを眺めているだけのA児が「これ、メスだよ。」と写真に書き込み、話しかけることができた

① iPadで筆談



1学期:理科の観察や実験場面での活用を試みた

7月

A児が初めて友達に
筆談で質問できた



- ・実験の内容がわからない場面で、直前まで使っていた「Notability」に文字を書き込み、となりの児童に質問できた（教師からの促しなしで、自分から友達に聞くことができた）
- ・友達からの返事を嬉しそうにのぞきこむ様子が見られた

① iPadで筆談



● iPadを使った1学期の学習をふりかえって(A児の言葉)

- ・紙(の筆談)よりも写真(iPad)がわかりやすい
- ・書くのが難しい時もあるから
(なんて書いていいかわからない時がある)
- ・紙の時は、時々はずかしい。みんなが集まってくるから
- ・iPadはみんなで使うから、みんなで使っている時は
はずかしくない
- ・宿泊学習の時(ウォークラリーの時)は
iPadが使えなかったから、紙の時も必要だと思った

① iPadで筆談



●児童の変化

・これまで紙での筆談では、教師から促すことで友達にわからないことを質問することはあった(継続しなかった)が、iPadを使用することで自ら友達へ尋ねることができた

→ 言葉だけではわからないことが、写真(視覚的情報)を介することで友達と情報を「共有」できた

→ A児にとって、紙の筆談は「自分だけ」が使うもの

iPadは「みんなと一緒に」使えるもの

A児にとっては「みんなと一緒に共有できた」経験が主体的に質問する行動につながったのではないか

使用したアプリ

- ② 自分の気持ちや考えを整理し、友達の前でプレゼンするためのツールとして

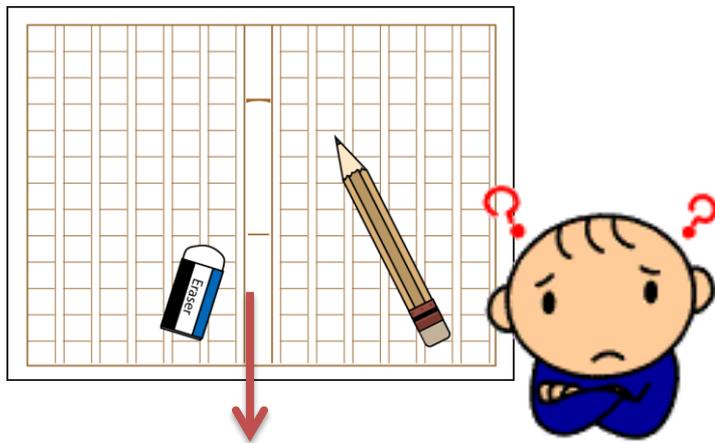


「ロイロノート」を活用

② iPadでプレゼン

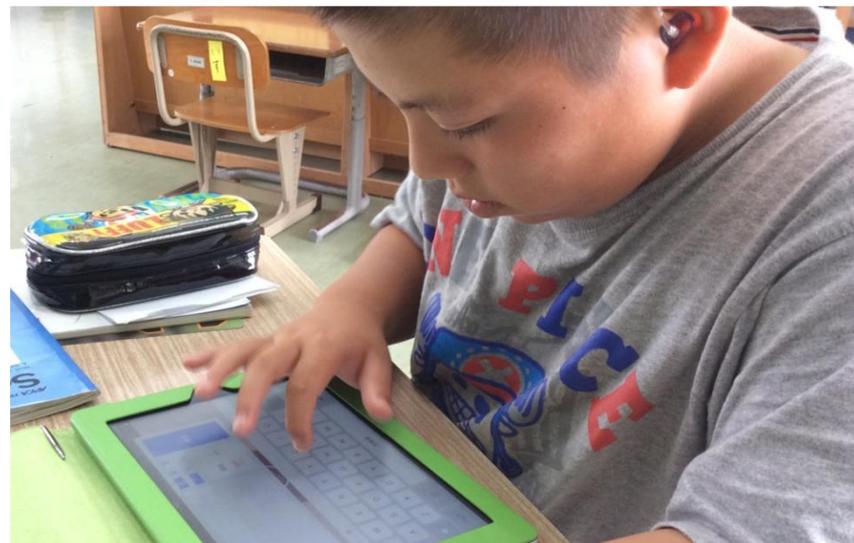


文章を書く



- ・書記日本語の未熟さ
(助詞や動詞の誤活用)
- ・くり返し書き直すことへの
抵抗感、苦手意識がある

② iPadでプレゼン



- ・ローマ字入力でカードを作成(箇条書きからスタート)
- ・作成したカードをつなぎ、スライドショーを流しながら言葉を補足・修正し、文章を仕上げる事ができた
- ・各カードの表示時間を調整し、スライドショーに合わせて手話や指文字を加えながら発表練習に取り組んだ

② iPadでプレゼン



難聴理解の啓発授業（難聴体験・A児の発表の様子）



- ・難聴体験をしているグループの児童とコミュニケーションをとろうとしている場面



- ・友達の前で自分の思いを発表するA児

② iPadでプレゼン



難聴理解の啓発授業（A児の作成したスライドの一部）

1

聞こえないけど、みんなと一緒に遊ぶことがたのしい。

2

でも、困っていることがある。

みんなに分かってほしいことがある。

3

もし、僕が聞こえない時は、となりの人に紙やアイパットに書いて教えてほしい。

4

もし、みんなと同じように聞こえる耳だったら、たくさんの中でおしゃべりをしたい。

① iPadでプレゼン



発表後のA児の感想

発表後、僕が、みんなに
発表しました。でも、手
話をほかの友達に、次の
発表は、手話を使っていき
たいです。
五年二組のみんなが僕
の感想を書いてくれて
ありがとうごさしまし
た。みんなが僕が
と目かけて来て、うれ

い気持ち
になります。
みんなと一系者に
勉強をすすらした事
なので、ありがとうござ
いました。
みんなが静かに聞いていた
からうれしかったで
す。
みんなと一系者に勉強
をいっはい進んでかん
は"リたいです。

発表できた自信と友達に分かってもらった喜び

使用したアプリ

- ③ 保護者や教師とメール機能を使って連絡を取り合うためのツールとして

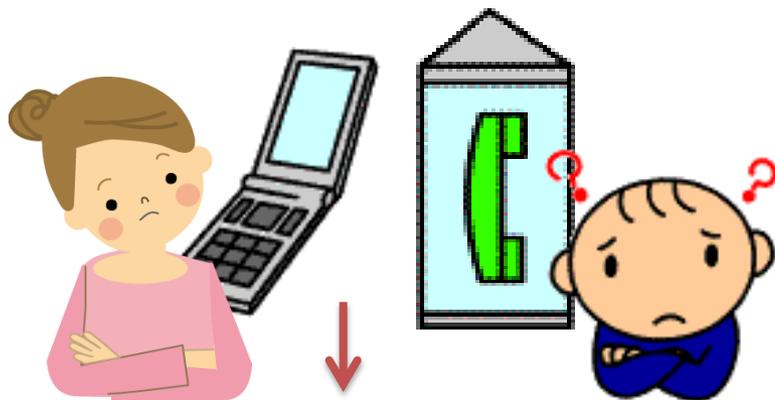


「メール」を活用



③ iPadでメール

電話でのやりとり

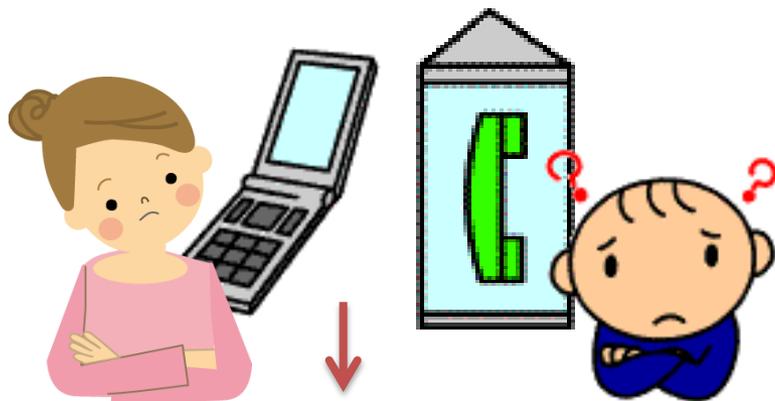


- ・静かな環境下なら電話も可能
- ・これまでは公衆電話で連絡
- ・部活の送迎で行き違いが
起こり、不安感を感じ始めた
- ・電話以外の連絡手段が必要

③ iPadでメール



電話でのやりとり



- ・静かな環境下なら電話も可能
- ・これまでは公衆電話で連絡
- ・部活の送迎で行き違いが
起こり、不安感を感じ始めた
- ・電話以外の連絡手段が必要

メールで保護者や教師とやりとり



- ・雨天時や騒音下でも連絡できる
- ・伝えたい事を正しく伝えたり、
受け取ったりすることができる
- ・保護者も不安感の解消につながる

③ iPadでメール



担任とのやりとり

- ・ローマ字で入力
- ・写真の添付方法を理解できた
- ・協力学級からの宿題でわからない問題についてメールで質問(6月)
- ・台風の際、休校の有無についてメールで質問(7月)

2組の宿題

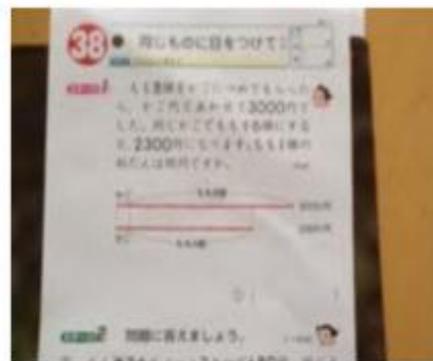
A児から担任へのメール



To: 自分
5日前 詳細

iPadから送信

こんにちは、宿題分からないので、ヒント教えてください。



今後の見通し

①について

- ・友達がわからない時にA児が「教えてあげる」場面はまだ見られない。A児が「教える側」での活用も検討

②について

- ・クラスの友達に認められる経験が自信に
- ・聴こえない児童と関わる機会の設定(ろう学校との連携)

③について

- ・保護者とのメールでのやりとりを開始する
- ・文を書く(作る)ことへの抵抗感を減らせないか

2 事例目 Bくんの実態



- 小学3年
- 軽～中度の難聴、軽度知的
- 認定就学の判定(小2当時)
PVT-R:3歳未満、新版K式:DQ 4:2
- 知的代替の教育課程
- ひらがな、カタカナ、小1程度の漢字の読み書きができる
- コミュニケーション意欲は高い

2 事例目 Bくんの実態

- 生活言語が少ない(学習言語の土台が乏しい)
- 経験したことや思ったことを伝えることが難しい
- 「わからない」と伝えることを諦めてしまうことが多い
- 小学校では、ろう学校の重複学級のように体験的な活動からことばを学習する時間の確保が厳しい
- 家庭や児童デイサービス職員より、「B児の言葉をどう引き出したらいいのか」と相談
- 学校-家庭-児童デイの三者間での連携が必要

そこで . . .

● 当初のねらい

- ① 協力学級や家庭、児童デイサービスとも連携し、体験したことを文字や文にまとめる活動を通して語彙の拡充を図り、児童の「伝えたい」という気持ちを高める
- ② 「学校—家庭—児童デイサービス」の三者間で、児童の言葉を育てるための指導方法についてSNSを活用した連携の方法を検討する

使用したアプリ

- ① 語彙の拡充と書記日本語の力を育てるための
ツールとして



「カメラ」「PhotoMememes」「Kids Flashcard Maker」を活用

① iPadで言葉を広げる



「PhotoMemem」で絵日記をつくる活動



オクラのなえをうえました。土をほりました。はたけにうえました。ぼくは、なえを三つうえました。

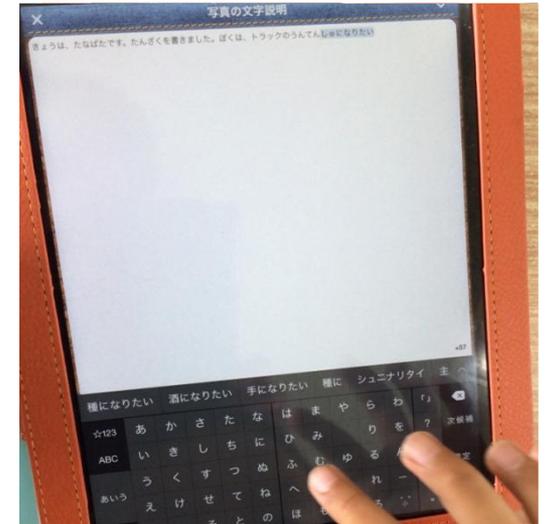


- ・写真に説明の文をつけられる
- ・国語や自立活動を中心に文作り
- ・学校、家庭、児童デイサービスごとにフォトカレンダーを作成し、各場所で活動の様子を記録
- ・慣れてきたら家庭や児童デイでも文作りに取り組んでもらった

① iPadで言葉を広げる



「PhotoMememes」で絵日記をつくる活動



- ・「みてー。」と自分から協力学級での活動を担任に伝えることができた
- ・学校での様子を「〇〇やったよ」と伝えるようになってきた(保護者より)
- ・助詞や動詞の誤活用はあるが、わかる言葉を文中で使おうとしている

① iPadで言葉を広げる



「Kids Flashcard maker」で単語を覚える活動



- ・写真に文字・音声・動画を組み込みカードを作成
- ・手話や指文字の映像もカードに保存できる
- ・学校で学習した単語を家やデイサービスでも確認できる

① iPadで言葉を広げる



「Kids Flashcard maker」で単語を覚える活動



- ・自分からアプリを開き、単語を確認する姿がみられた
- ・覚えた単語を会話の中で使おうとする様子が見られた
- ・「家で何度も確認しながら指文字とか手話で読んでいました。私も一緒に勉強しています。」(保護者より)

① iPadで言葉を広げる



●児童の変化

- ・学校や家庭、児童デイサービスでもB児からの発信が増加

うまく説明できなくても「伝えたい」という気持ちの高まり
写真を提示することで、周りの人が「わかってくれる」



せみ、やったよー。

そうなんだ！
「せみとり」をしたんだね。



→教師や保護者も彼の言いたいことがわかる

B児の伝えたい内容を汲み取った拡張模倣が行いやすい

使用したアプリ

- ② 「学校—家庭—児童デイサービス」と連携を図るためのツールとして



「Twitter」を活用

② SNSで情報共有



「Twitter」で学校—家庭—デイサービス間の連携を図る



- ・現在、iPadを児童デイや家庭にも持ち帰り「Photomemes」を活用
- ・夏休み前のケース会議後、「Twitter」の活用をスタート
- ・具体的な指導場面を写真や動画に撮り、三者で共有

今後の見通し

①について

- ・B児が自分から「伝えよう」とする場面が増加
- ・わからない物でも、写真を撮って提示することで「(これ)何？」と質問できるようになってほしい
- ・語彙の拡充を図るため、他のアプリの活用も検討
(「Keynote」や「iBooks」などで教材やワークシート作成等)

②について

- ・SNSを活用した連携方法について、過去の「魔法のプロジェクト」事例を参考に取り組みを進めていきたい

ご清聴ありがとうございました

